

# ～ひいらぎ養護学校を訪問して～

( 5 班 )

活動先：愛知県立ひいらぎ養護学校

## 1. 活動先紹介

### 愛知県立ひいらぎ養護学校

愛知県半田市出口町一丁目8番1

校長 間宮 一高

全校生徒128名 教員数109名

平成16年4月1日半田高等学校昼間定時制の跡地に県内8校目の肢体不自由養護学校として開設されたのである。校章に描かれた三枚の柊の葉は、小・中・高等部の児童生徒が校訓にある「誠実な心」をはぐくむと祈念したものである。

校訓 明るく たくましく 誠実な心

ひいらぎ養護学校の教育目標は、「一人一人の能力や特性を伸ばす教育を進め、障害の状態を改善・克服しながら、社会を形成する一員として明るくたくましく誠実に生き抜く人間を育成する」ことである。

各部の努力目標

- ・小学部では（1）健康、安全への配慮を十分に行い、基本的な生活習慣を身に付ける。（2）児童一人一人の指導目標を明確にし、集団の中で生きる力を最大限に伸ばす。
- ・中学部では（1）基本的な生活習慣の確立を図り、健康の保持、増進及び向上に努める。（2）生徒一人一人の特性に応じて、基礎学力の定着及び向上を図り、集団に進んで参加する態度を養う。
- ・高等部では（1）健康の保持促進及び体力の保持を図り、社会生活に必要な幅広い知識と誠実で豊かな心を育てる。（2）生徒一人一人の能力、適正に応じた進路指導を推進し、自立した生活を送り、積極的に社会参加するための生きる力を育てる。

小学部紹介

さまざまな教科、自立活動など児童の実態に合わせた様々な授業を行っている。校外学習では、自然と触れ合ったり、公共の場所で学習したり、校外での体験的な活動も行っている。

中学部紹介

生活単元学習の授業では調理室を使って簡単な調理実習を行っている。ひいらぎ養護学校の調理室の調理台は車いすの生徒でも高さが調節できるようになっている。保健体育の授業では、体作り体操、風船バレー、フライングディスク、ボッチャ、スポーツチャンバラなどを行っている。車いすの生徒も一緒になって取り組んでいる。

高等部紹介

教科「情報」を始めとする教科指導や総合的な学習の時間等で、パソコンを使って情報をあつめたり、動画、ホームページ等を作成して表現活動を行ったりしている。（パソコン活用）作業学習には、木工班と手工芸班、パソコン班があり、木工班は移動式ラックなどを製作している。手工

芸班はアクリルたわしや日々活用するぞうきんを作っている。

## 2. 当初の活動目的や目標

仮設と結論・結果の違いを調べ、どうしてそうなるかについて考えることである。仮設としては、「子どもたちは、障害レベルに合わせてクラス分けが行われているのではないか？」としたのである。教師として働いている方がどのような想いで活動をしているのかを知る。

## 3. 自分たちの活動内容

ひいらぎ養護学校を訪問し実際の学校内の設備や様子を見学させてもらうことである。養護学校では、一人ひとりに合わせた授業が行われていると講義などで聞いたものの、実際はどういったものなのかをきちんと理解できていなかったのである。しかし、現場の様子やお話を聞くことで「一人ひとりのニーズに合わせた」ということを次のように理解したのである。例えば、あるひとりの生徒の場合、水泳の授業では泳ぐことが目的なのではなく、浮力によって普段は緊張した筋肉をリラックスさせることが目的であるといったようなことがある。このように、それぞれの障害によって必要とされていることは異なっているのである。したがって、同じ授業でも個人の目標が違っていることが養護学校であるだろう。また、学校内にはエレベーターの設置といった車いすや歩行器を利用する児童生徒にも生活にしやすい設備が整っていたのである。今回の訪問で、養護学校とは障害のある子どもが成長するために必要な環境が整っている場所であると感じたのである。何もかも介助することが求められているのではなく、不足している部分を最小限の補助によって、生活することができるように訓練する必要があるだろうと考えるのである。他に気付いたこととして内装はすべてバリアフリーになっているということである。廊下も広く、エレベーターもとても大きく作られていたのである。ひいらぎ養護学校はリフト付きのスクールバスを3台所有しているのである。そのバスの対象とされている地域は、半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、武豊町、南知多町、美浜町、碧南市、刈谷市、高浜市である。バスに乗らない児童生徒の通学方法は、自家用車で親さんに送り迎えしていただいたり、電車通学や徒歩通学の児童生徒もいるのである。

## 4. 活動における問題点・課題

インフルエンザが流行っていたということもあり、児童生徒との距離をとらざるをえなかったことである。訪問する時期も大切だと感じたのである。

知りたいこと、興味に思ったことがあったら積極的に質問するという自ら学ぶという姿勢を大切にすべきであった。

## 5. 結論活動を通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

活動を通して学んだことは、障害の程度は生徒個人によって異なるために一律に目標を立ててもできる、できないの問題が生じてくるので個人に合わせて目標を作ることで児童生徒が目標を達成でき次のステップに繋げることができ、できないことを克服させることにより得意なことを

伸ばすことで児童生徒の気持ちを引き出すことができると感じたのである。外面的な面では、近くの高等学校との交流があり児童生徒にとって良い刺激になっていると感じたのである。逆に高等学校の生徒もひいらぎ養護学校のことを知ることができ違う視点から見ることでもできるのではないかと感じたのである。養護学校の児童生徒の登下校時を見守ることができるのもそのひとつではないかと感じたのである。

児童生徒128名に対して128通りの考え方があるということが大切であるということが理解できたのである。

## 6. 活動先への提案

最寄駅の住吉町駅からひいらぎ養護学校までの間で交通量が多いわりに道幅が狭く溝があるという箇所がいくつかあったのでできる範囲で解決をする必要があると感じた。

## 7. 次年度活動する学生へ

今回の活動を通して良かったこととしては、事前に周辺調査をしたりホームページなどでひいらぎ養護学校について調べたりしたことである。周辺調査で分かったこととして、電車通学をしている児童生徒は自分で乗り降りできるために駅員さんとしての工夫は特にないということ、そして、学校から約10分のところに病院があるということが事前に分かったのである。それを踏まえてグループで話し合い仮説、結論・結果はどうなるのかなどを考えた上で訪問できたことである。個々で自分なりの目標や仮説を立てたこともよかったことの一つである。

- ・わからないことや知りたいと思ったことがあれば積極的に話かけることが大切である。活動する前に何が自分にできるのか何がしたいのか明確にしておかないと活動先に行ってもすることがなくなってしまうと思うのでしっかりと計画を立てておくことが必要である。
- ・活動先の方と連絡を取るときは、活動仲間で連絡係を決め、活動先の方の都合のいい時間を聞きそれを優先させることに気をつける。
- ・活動先とわたしたちとの間で意見の食い違いが起きてしまうことを防ぐためにも、連絡を怠らないようにする。また、連絡を密に取り合うことにより、相互の信頼関係も構築されると考える。相手の都合に合わせてわたしたちから連絡をとる。
- ・活動日程と活動時間は、活動先の方と十分打ち合わせ、確認したうえで設定をする。あらかじめ活動仲間で都合の悪い日を確認し、活動先の方にそれを伝えるとスムーズに設定できる。
- ・活動記録は必ず活動を行ったその日に書くことで、次の活動に生かすことができる。
- ・活動を行う前に1日の自分なりの活動目標やテーマをもって活動をする。
- ・一人で考え込まずに、一緒に活動する仲間としっかり意見を言い合い、共通点を探っていく。そのために、仲間と意思疎通ができるような間柄になっておくことよい。